

【とわだ市民カレッジ第7講座】質問と回答

講演会でお答えした質問のほか、事前にいただいた質問で時間の都合でお答えできなかった質問に対する回答を掲載いたします。

①パイロットになるまでに苦労したことは何ですか。また、どのようにしてそのことを乗り越えましたか。

回答者 井上副操縦士

➡苦手だったのは、コツコツと勉強を続けることやスムーズに取り掛かることでした（笑）

膨大なマニュアルに目を通し、知識を身に付けなければならない。その量に圧倒されました。それを乗り越えるには、個人的に二つのことを意識しました。

一つ目は、タスク（課された課題や仕事など）や必要な勉強を分解するということです。例えば、何百ページもあるマニュアルの「今日は『第1章』だけ読もう」「今日は『燃料に関するところ』だけ読もう」ということです。

二つ目は、やる気が起きるのを待たない、ということです。作業興奮という言葉がありますが、やる気がない状態でもいざ作業を始めると、次第に集中力やモチベーションが高まってくるというメカニズムです。やる気が起きるのを待っていれば一生できなくなるので、やる気を待たずとりあえずやってみます。「とりあえず1問だけ解いてみよう」「まず1分だけ机に向かってみよう」と意識すると、自分の中のハードルが下がり、逆に知識欲が湧いてきました。

②今、中学生です。航空関係のお仕事、CAやグラウンドスタッフになりたい夢があり、それになるためにはどういう進路を目指したらいいのか迷っています。いろいろ調べていると専門の高校もありますし、専門学校もあります。塾の先生からは、大学に行って目指した方がいいというお声もあります。どの道に行けばよいのかすごく悩み中です。

回答者 岩本客室乗務員

➡客室乗務員という仕事に関してお答えします。

個人的な意見ですが、4年生の大学に行くのがよろしいのではと思います。専門の高校や専門学校でも学べると思うことが多いです。

が、今はまだ中学生ということで、就職するまでにはたくさんの時間があります。大学に進学していろいろなことを勉強したり、知識を蓄えたり、経験を積むことによって、選択肢の幅が広がると思います。

中学生にとっては、まだイメージしづらいことだと思いますが、後悔のない選択をしていただきたいと思います。

心から応援しています。頑張ってください。

③ J A L の養成コースの費用と試験の競争率について教えてください。

回答者 井上副操縦士

➡自社養成の個人負担（費用）はかかりません。

競争率は、残念ながら具体的な数字は公開していません。採用人数は、年によって違いますが、年間 30 人から 80 人程度となっているようです。

④ 学生時代に頑張ったことは何ですか。

回答者 井上副操縦士

➡学生時代は楽しんでいました（笑）

講演でも申しましたが、パイロットには特別な能力は不要です。特殊なことをしていると思われそうですが、他のパイロットと話をしても皆さんわりと普通です。

私は、自分がやりたいことを後悔しないように、思いきり楽しむようにしました。

例えば、勉強や部活、習い事、サークルを全力でやる。何かを全力でやるということは、そのうち自分を助けてくれると思います。

⑤ 機長と副操縦士の食事が別だということを聞きました。また、機長と副操縦士の役割分担について教えてください。

回答者 井上副操縦士

➡機長と副操縦士の食事が別だということは、本当の話です。必ず別の食事です。

機長と副操縦士の違いは、大きく二つあります。

一つ目は、フライトに関することの最終責任は全て機長にあるということ。二つ目は、雷や雷雨、横風が強いなどのある一定よりも悪い条件の天候の場合は、機長のみが離着陸を許されます。この二点を除くと、機長と副操縦士のできることに差はなく、天気がいい時は副操縦士も離着陸を行えます。

⑥パイロットとの皆さんはどこに住んでいるのか知りたいです。やはり羽田、成田に通勤しやすい都会でしょうか。地方に住んでいる方もいるのでしょうか。パイロットの仕事は十和田に住んでいても可能なのでしょうか。

回答者 井上副操縦士

➡日本航空のパイロットの大多数は首都圏に住んでいます。しかし、日本航空は遠距離通勤も認めており、沖縄から北海道までさまざまな場所に住んでいます。通勤時間が長くなるなど苦労もあると思いますが、十和田市に住んだまま働くことも可能です。

⑦男性が多い職場で、自分らしく働くために工夫していることは何ですか。

回答者 井上副操縦士

➡自分の意識として、女性だから、男性だからではなく、人として、ということは何事も意識しています。

例えば、相手が女性だから優しくするではなく、人として相手に優しく接するなどです。

また、時には勇気を出して発言することも必要です。働き方を変えたかったり、会社のサポートを得たいこと（子育てなど）があったら、黙っていて会社が変わるのを待つのではなく、自ら相談して変えようとすることを意識しています。

⑧これから航空業界や理系職を目指す女性にメッセージをお願いします。

回答者 井上副操縦士

➡少数派であると思うかもしれませんが、もう時代は令和です！自分がしたいことをしたいようにやって良いんです。自分の願いや夢に素直に、どのように行動したら、何を努力したらそれを実現できるかということを考えていくと現実になりやすいかもしれません。

応援しています！

⑨男性でキャビンアテンダントという職業を選んだ理由を教えてください。

回答者 岩本客室乗務員

➡私は新卒で信用金庫に勤めましたが、学生時代のカフェでのアルバイトの経験から、自分にはサービス業が合っているのではないかという思いがあり、転職を考えるようになりました。

お客様に期待以上のサービスを提供し、お客様に喜んでいただけること、また、自分を評価していただけることにやりがいを感じておりましたので、客室乗務員ならそれを追求していけるのではないかと思います。

⑩「男性なのに…」と驚かれたエピソードやそれにどう対応しましたか。

回答者 岩本客室乗務員

➡以前先輩から「男性なのに気遣いができるね、所作がきれいだね」とお褒めの言葉をいただいたことがあります。素直にうれしい気持ちもありましたが、男性は気を遣えない、所作が多少雑でも仕方ないと思われるのかもしれないとも考えました。

女性が多い職場ですので、共に働く乗務員やお客様からそのように思われることも仕方ないと思います。

その上で、よく周りをみて、仲間やお客様の些細なサインにいち早く気付こう、丁寧で美しい所作を心がけようという思いで日々乗務をしています。

女性、男性関係なく、JALの客室乗務員として、一人でも多くのお客様により良いサービスをお届けできるよう、これからも精進していきたいです。

⑪滑走路や場所など特徴的だなと思う空港はありますか。また、おすすめ空港ターミナルはありますか。

回答者 岩本客室乗務員

➡私が特徴的だなと思う空港は、和歌山県にある南紀白浜空港です。私が地上での訓練を終え、初めて実際に飛行機に乗務したのが南紀白浜空港だったのですが、着陸の際にものすごく揺れたのを覚えています。南紀白浜空港は山の上にあり、強風率が高く、着陸が難しい空港として有名です。そのような状況の中でも、コックピットのお二人が安全に着陸してくださり、さすが！格好いい！と感動した思い出があります。

また、私がおすすめと言いますか、行ってみたいと思っている空港が、奄美空港です。空港の売店にミキという乳酸菌飲料が売っており、奄美大島のソウルドリンクだそうで、ベテランの先輩からとてもおいしいと聞きました。奄美便に乗務する機会があまりないのですが、もし乗務できた際にはぜひ飲んでみたいと楽しみにしております。